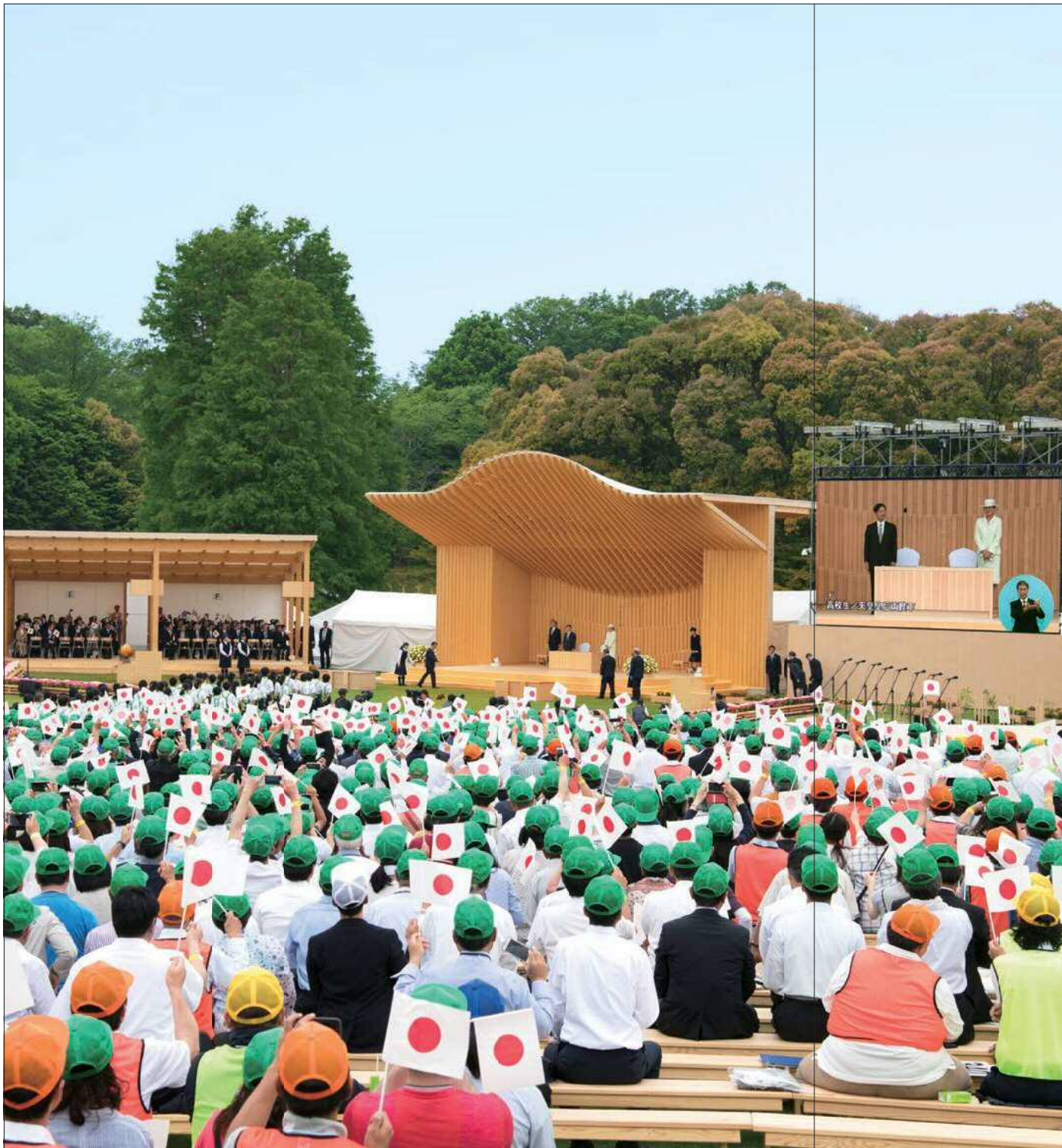


第70回全国植樹祭記録誌



木に託す もり・まち・人の あす・未来

愛知県



発刊のことば

初夏のさわやかな風が木々の緑とたわむれる季節を迎えた6月2日、令和という新しい時代の幕開けの記念すべき年に、5月1日に御即位されました天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、愛知県森林公園を主会場として、「木に託す もり・まち・人の あす・未来」を大会テーマに、第70回全国植樹祭を開催いたしました。

大会当日は、式典会場と県内3カ所に設けたサテライト会場と合わせて、県内外から1万5千人を超える皆様に御参加いただき、両陛下から「記憶に残る思い出深い訪問になりました。」とおことばをいただく等、令和初の行幸啓として成功を取めることができました。

今大会では、全国植樹祭では11年振りとなる天皇陛下のおことばを賜るとともに、両陛下に、少花粉スギのあいこ杉や県の木であるハナノキ等をお手植え、お手播きいただきました。

式典のアトラクションでは、総勢700名を超える方々に御出演いただき、映像やダンスパフォーマンス等により、江戸時代に培われた、からくり人形づくりなどの、木材を利用する技術が発展し、自動車、航空宇宙、ロボット等の製造業の生産額が47兆円と41年連続で日本一の愛知のものづくりの歴史や、木材を使ったまちづくりの未来を表現いたしました。

さらに、成熟した森林資源を生かす「循環型林業」や山から街まで緑豊かな愛知の実現を目指す「あいこ森と緑づくり事業」等の紹介の他、両陛下のお野立所から参加者の皆様の椅子に至るまで、会場内に愛知県産の木材をふんだんに利用することなどにより、「愛知の誇るものづくりの伝統と文化」、「森と緑づくりや木づかい」など、愛知県の魅力や取組を全国に発信することができました。

今後は、全国植樹祭の開催理念を継承し、愛知県の林業・木材産業の振興、森林整備の推進等によりしっかりと取り組んでまいります。

本誌は、第70回全国植樹祭の感動を記録として永く後世にお伝えするとともに、「木材の利用」が山村と都市をつなぐ架け橋となり、健全で活力ある「森林づくり」と「都市づくり」がここ愛知から全国に広がることを願い、作成いたしました。

結びに、今大会の開催に多大な御支援を賜りました多くの皆様から心から感謝を申し上げ、発刊のことばといたします。

令和2年2月

第70回全国植樹祭愛知県実行委員会会長

愛知県知事 **大村秀孝**

開催概要

開催意義

本県は、主力産業である自動車産業をはじめ、繊維や陶磁器などの伝統産業からロボットなどの次世代産業まで、ものづくりが盛んな「日本一のものづくり県」であり、令和9年の開業をめぐりニア中央新幹線、国産初のジェット旅客機スペースジェットなど、日本の未来を創るプロジェクトが、この愛知を舞台に大きく羽ばたこうとしています。

また、全国屈指の農業県であり、中でも花きは、昭和37年から現在まで全国第1位を誇っています。

加えて、平成17年の「愛知万博」、平成22年の「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」、平成26年の「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」といった国際的なイベント開催により培われてきた県民の高い環境意識を生かし、環境施策においてトップランナーである「環境首都あいち」の実現を目指しています。

平成27年には「全国都市緑化フェア」を開催するなど、緑や環境をテーマとした取組を継続的に行うとともに、山から街まで森や緑を守る「あいち森と緑づくり税」を導入し、独自の事業を展開しています。

また、公共建築物等木材利用促進法に基づく都道府県方針である「あいち木づかいプラン」や県内全ての54市町村が策定した市町村方針により、官民一体となって住宅や公共施設等への県産木材の利用拡大を進めています。

こうした中で、令和元年に、第70回全国植樹祭を愛知県で開催することになりました。愛知県での開催は、昭和54年以来40年ぶり、2回目となります。

第70回全国植樹祭を「愛知の誇るものづくりの伝統と文化」、「森と緑づくりや木づかい」など、本県の魅力や取組を全国に発信する機会とします。



開催理念

愛知県は、日本のほぼ中央に位置し、南は太平洋に面し、西部から南部にかけての一角は平野で、濃尾平野、岡崎平野、豊橋平野が形成されており、東部には、三河山間部が広がるなど、多様な環境に恵まれています。

また、中京工業地帯の中心として、航空宇宙やファインセラミックス、エレクトロニクス等の先端産業や自動車産業等、世界でも有数の産業集積を誇り、製造品出荷額等が、昭和52年から現在まで全国第一位を誇る「日本一のものづくり県」です。

本県の「ものづくりの歴史」を振り返りますと、江戸時代において、名古屋では、木曾川を経て運ばれてきた良質な木材の一大流通拠点であったことや、名古屋城築城の際に集められた職人が定住化したことから、木材を利用した街づくりはもちろんのこと、「からくり人形づくり」や「山車づくり」、「家具製造」などを通じて、「木材を利用する技術」が培われました。

明治時代においては、こうした「木材を利用する技術」から発展した、時計、鉄道車両、楽器、航空機、織機などの近代産業をもたらし、本県の工業発展の礎となっています。まさに、木材の利用は、本県のものづくりの原点となっています。

一方、本県の「森林づくりの歴史」につきましては、古くは、自然に育った幼樹を採取し、苗木として植樹していました。

江戸時代から明治時代において、三河地方を中心に、種から苗木を育てる技術が発達し、容易にかつ多くの苗木を確保することが可能となり、植樹が進みました。また、尾張地方を中心に、燃料としての森林の伐採等によりハゲ山が広がっていましたが、尾張藩による植樹やヨーロッパの技術を取り入れて実施された治山事業などにより復旧されました。

戦後においては、復興の際に伐採された森林の緑化促進や高度成長期の木材需要の高まりを背景に、植樹が進められました。

こうした先人の方々のたゆまぬ努力が礎となり、現在は県土面積51万7千haのうち21万8千haが森林となっています。

また、人工林の割合は64%で、全国平均の46%を大きく上回り、人工林のうち、成熟して利用できる時期に達している森林の面積は約8割と大きな割合を占めています。

このように、森林資源が充実し、本格的な利用期を迎えている今こそ、木材利用を推進していくことが重要です。

木材の利用は、林業・木材産業を活性化するとともに、森林整備を促進することから、水を蓄え山崩れを防ぐなど、森林の有する多面的機能の持続的な発揮につながります。

さらに、木材の持つ柔らかさ、温かさといった特性は、快適で健康的な生活環境をもたらしてくれます。

このため、本県では、名古屋市を中心とした大消費地を抱える特性を生かし、住宅や公共建築物、街なみ等都市部への木材利用の取組を広げていきます。

また、成熟した森林を伐採・利用し、植樹をして次世代の森を造っていく「循環型林業」や、森や緑を守り育む「あいち森と緑づくり事業」を推進することにより、多面的機能を持続的に発揮できる森林づくりを加速していきます。

こうしたことから、第70回全国植樹祭は、以下の理念により開催します。

私たちは、「木材の利用」を山村と都市をつなぐ架け橋とし、健全で活力のある「森林づくり」と「都市づくり」を進めていきます。



大会テーマ

「木に託す もり・まち・人の あす・未来」

作者：大井田 雄策さん（東京都大田区）

制作意図：開催理念である「森林づくり」、「都市づくり」を進めることは、そこに住む「人づくり」にも通じることであり、今回の植樹祭で植える木から「森林をつくり」、「都市をつくり」、「人をつくる」ことで、明るい明日や未来をつくっていききたい。

マスコットキャラクター「森ずきんちゃん」

作者：盛 秀雄さん（青森県青森市）

制作意図：愛知県の「A」の字をモチーフに、愛知県の森に住む、葉っぱを巻いた元気な女の子をイメージし、キャラクター化しました。手には、苗とシャベルを持たせ、大会テーマの「木に託す もり・まち・人の あす・未来」を強調し、表現しました。



大会ポスター原画

画題：「ぼくの木」

作者：齋藤 悠大さん（西尾市立津平小学校2年）
※平成29年度受賞当時

制作意図：ぼくのうえた木に、大すきなかぶとむしやたくさん生きものが、たのしくらせるようになるといいと思ってかきました。



第70回全国植樹祭 大会イメージソング

「と・も・に」 作詞・作曲：岡村 孝子 編曲：萩田 光雄

愛知県出身（岡崎市）でLOVEあいちサポーターズ「あいち音楽大使」に就任していることや清潔感があり、柔らかな歌声が木と同様に私たちに癒しを与え、植樹祭のイメージにふさわしいことから、シンガーソングライターの岡村孝子さんに大会イメージソングを制作していただきました。



YouTube「第70回全国植樹祭あいち2019公式チャンネル」にshort ver.を掲載

と・も・に 検索

- | | | |
|--|---|---|
| 1. 緑の森を渡る
そよ吹く風のように
大きな愛を注ごう
変わらぬ愛を注ごう
キラキラ輝いてる
小さな言葉たち
信じるその瞳で
明日を描いていく
夢を抱いて 理想を追って
どんな時代も越えていけ
共に生きて 共に歩く
遠い未来に届くように | 2. 無邪気な顔で笑う
小さな子供たちは
野に咲く花のように
まっすぐ前を向いて
転んですりむいても
いつしか歩き出せる
喜びも悲しみも
すべてを受けとめたら
希望あふれ 光満ちる
この瞬間 くり返し
共に見つめ 共に信じ
遠い未来につなげよう | 夢を抱いて 理想を追って
どんな時代も越えていけ
共に生きて 共に歩く
遠い未来に届くように
森は未来 陽ざし浴びて
町も人も 息づいて
共に生きて 共に歩く
遠い未来に届くように |
|--|---|---|

岡村 孝子さんコメント

私は愛知県の四季の移り変わりが、はっきりとわかる素敵な環境の「故郷」で生まれ育ちました。瞳に映るあたたかい風景、人との出会いが感じる心を育ててくれたと感謝しています。2016年からLOVEあいちサポーターズ「あいち音楽大使」に任命され、このたび「第70回全国植樹祭」の大会イメージソングを書かせて頂き、とても光栄に思います。植樹祭で植える苗木達と人が共に生き、大きな森、まち、あす、未来につながっていきますように…、そして多くの方にこの歌が届きますように…。

岡村 孝子

開催日／主催／会場

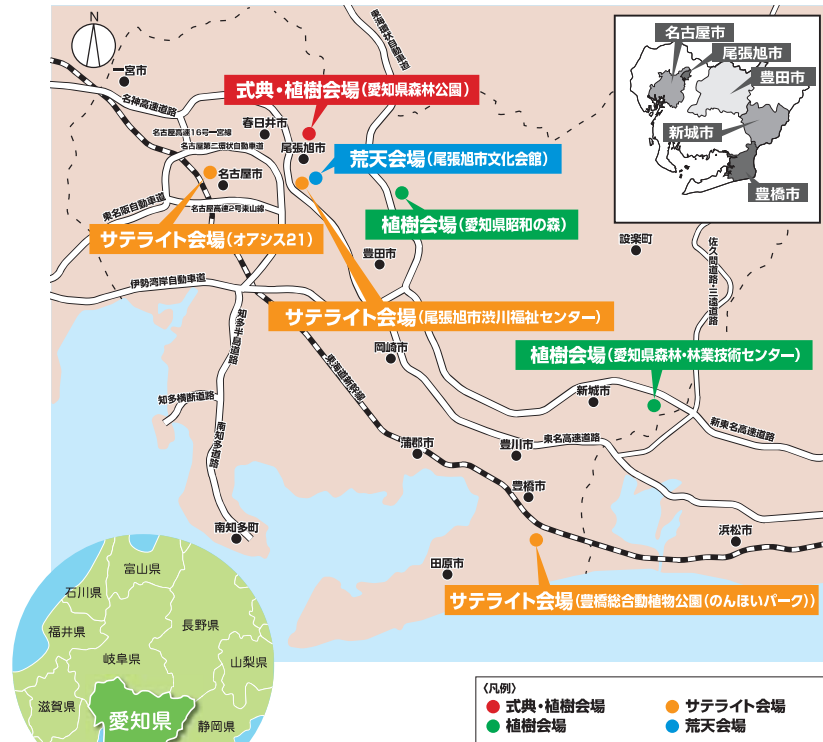
開催日：令和元年6月2日(日)

主催：公益社団法人 国土緑化推進機構・愛知県

式典・植樹会場：愛知県森林公園（尾張旭市・名古屋市守山区）

植樹会場：愛知県昭和の森（豊田市）
愛知県森林・林業技術センター（新城市）

サテライト会場：オアシス21（名古屋市東区）
豊橋総合動植物公園（豊橋市）
尾張旭市渋川福祉センター（尾張旭市）



式典会場・植樹会場

式典会場

愛知県森林公園

尾張丘陵の一角に位置しており、江戸時代前期には「えびづる御林」として保護されていたものの窯業などのために樹木が乱伐され、明治初期は一带がはげ山となっていました。県の治山事業等により植生が回復し、昭和9年に日本初の「森林公園」としてオープンしました。一般公園、運動施設、植物園、ゴルフ施設等を有しており、総面積は536haです。



愛知県森林公園



式典会場

植樹会場

会場名	整備方針
愛知県森林公園（休養の森・南門）	有用広葉樹や多種多様な樹種を植栽し、人と自然が織りなす里山林を創出します。
愛知県昭和の森（記念の森・四季の丘）	花粉の少ないスギ(あいちニコ杉)を植栽し、循環型林業を推進します。
愛知県森林・林業技術センター	花粉の少ないスギ(あいちニコ杉)を植栽し、循環型林業を推進します。



愛知県森林公園（休養の森）



愛知県森林公園（南門）



愛知県昭和の森（記念の森）



愛知県昭和の森（四季の丘）



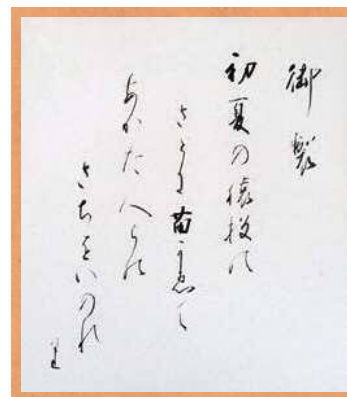
愛知県森林・林業技術センター

前回大会の様子

愛知県では、昭和54年5月27日、西加茂郡藤岡町（現在の豊田市）にて、昭和天皇・香淳皇后をお迎えし、「緑で結ぼう山村と都市」を大会テーマに、第30回全国植樹祭を開催しました。

この大会では、昭和天皇がヒノキを、香淳皇后がハナノキをお手植えになるとともに、南設楽郡鳳来町（現在の新城市）にて、スギとヒノキをお手播きになりました。

また、約2万人の参加者により、ツブラジイ、シラカシ、アラカシ等の記念植樹が行われました。



御製

初夏の猿投の

さとに苗うゑて

あがたびとらの

さちをいのれり

令和元年現在の様子



昭和天皇がお手植えになられたヒノキ（愛知県昭和の森）



御製碑（愛知県昭和の森）

目 次

発刊のことば	3
開催概要	4
式典会場・植樹会場	9
前回大会の様子	10

第70回全国植樹祭

招待者入場	14
招待者記念植樹	16
イントロダクション	19
プロローグアトラクション	20
感謝状の贈呈	22
記念切手の贈呈	23
天皇皇后両陛下下御到着	24
開会のことば／三旗掲揚・国歌斉唱	26
主催者挨拶	28
天皇陛下のおことば	30
表彰	32
苗木の贈呈	33
天皇皇后両陛下お手植え	34
天皇皇后両陛下お手播き	36
代表者記念植樹	38
メインアトラクション	39
大会宣言	42
リレーセレモニー／閉会のことば	43
天皇皇后両陛下下御出発	44
エピローグアトラクション	46
おもてなし広場	48
出演者紹介	50
作品御覧	56
レセプション	57
サテライト会場	58
第48回全国林業後継者大会	60

開催までの取り組み

あいち「言の葉」キャラバン	62
地球未来こども塾	66
地域植樹イベント	67
苗木のスクールステイ	68
第70回全国植樹祭1年前記念イベント	70
第70回全国植樹祭カウントダウンボード除幕式／第70回全国植樹祭PRイベント	71
全国植樹祭シンボル「木製地球儀」市町村リレー展示	72
第70回全国植樹祭愛知県実行委員会／第70回全国植樹祭実施計画の決定	75
出演者練習風景	76
リハーサル	78
会場整備	79
式典備品の製作	82
広報活動	83
大会参加記念品・大会用品	85
大会弁当	86
協賛者紹介	87

資料編	91
-----	----



第70回全国植樹祭

令和元年6月2日(日)

式典・植樹会場 愛知県森林公園(尾張旭市・名古屋市守山区)

植 樹 会 場 愛知県昭和の森(豊田市)
愛知県森林・林業技術センター(新城市)

サテライト会場 オアシス21(名古屋市東区)
豊橋総合動植物公園(豊橋市)
尾張旭市渋川福祉センター(尾張旭市)



招待者入場

午前7時15分から式典招待者の入場が始まりました。



バス降車



入場の様子



入場ゲート



入場チェックの様子



スタッフの介助による入場



スタッフによる誘導



公園内を進む招待者



ウェルカムゲートをくぐる招待者



ウェルカムゲートをくぐり座席へ向かう招待者



座席へ向かう招待者



スタッフによる座席案内



スタッフによる座席案内



スタッフによる誘導



植樹会場へ向かう招待者

招待者記念植樹

県内外の招待者約5,900人が愛知県森林公園、愛知県昭和の森の2会場で記念植樹を行いました。
 なお、もう一つの会場である愛知県森林・林業技術センターでは、渋滞による遅延と降雨のため、参加者の安全を考慮して記念植樹を中止しました。

愛知県森林公園（休養の森）



植樹区画へ向かう招待者



スタッフによる植樹方法の説明を聞く招待者



植樹方法を説明するスタッフ



招待者による植樹の様子



植樹後の様子

愛知県森林公園（南門）



植樹方法を説明するスタッフ



招待者による植樹の様子



植樹後の様子

愛知県昭和の森（記念の森）



植樹区画へ向かう招待者



植樹方法を説明するスタッフ



招待者による植樹の様子



植樹後の様子

招待者記念植樹

愛知県昭和の森（四季の丘）



植樹区画へ向かう招待者



植樹方法を説明するスタッフ



招待者による植樹の様子



招待者による植樹の様子



地元の皆さんによるおもてなしブース



地元の皆さんによるおもてなし



植樹後の様子

イントロダクション

イントロダクションでは、尾張旭市長の挨拶に続き、大会概要や式典会場の紹介、そして愛知のものづくりと森林・林業や大会までの取組を紹介する映像のあと、式典のプロローグの始まりを予感させる和太鼓の音が鳴り響き、色鮮やかな衣装を身にまとう小鳥たちが会場を彩りました。



式典進行役



森 和実 尾張旭市長の挨拶



イントロダクション映像「愛知のものづくりと森林・林業」



「鼓動の高まり」志多らの皆さん



来場者に笑顔を振りまく小鳥たち



一般招待者席の間に入り、笑顔を振りまく小鳥たち



どんぐりのもとへ集まる小鳥たち

プロローグアトラクション

－「過去」の誇り－ “あいち 木とものづくりストーリー”

山から伐り出した木材を筏にして、川を下り、都市に見立てた「木づかいの舞台」を作り上げていく様子を表現しました。

遙かなる森の歌声



ナビゲーター 遼河はるひさん



「木の歌」佐野文彦さん



「小鳥たちの舞」

もりからまちへ 森林から都市への旅



「アプローチ」志多らの皆さん



「急流筏下り」



「急流筏下り」

人との出会い



「木遣り音頭」



「大工パフォーマンス」



「カステネットリズム」

木づかいの舞台



「木づかいの舞台」



みどりの少年団による歯車パフォーマンス



みどりの少年団によるタイトルコール

感謝状の贈呈

第70回全国植樹祭の大会テーマ、大会ポスター原画の作者に感謝状が贈呈されました。



贈呈を受ける大井田雄策さん（大会テーマ作者）



贈呈を受ける齋藤悠さん（大会ポスター原画作者）

記念切手の贈呈

日本郵政株式会社から、第70回全国植樹祭の開催を記念した、ふるさと切手「国土緑化（愛知県）」の初刷りが贈呈されました。



日本郵政株式会社 取締役兼代表執行役社長 長門正貢さん



記念切手を披露する大村知事



ふるさと切手 「国土緑化（愛知県）」

「第70回全国植樹祭」のお手植え・お手描き樹種のほか、開催地である愛知県の花が採用されています。
この記念切手は、令和元年5月28日（火）に全国の郵便局で一斉に発売されました。

天皇皇后両陛下御到着

第70回全国植樹祭



第70回全国植樹祭



開会のことば



公益社団法人国土緑化推進機構 副理事長 前田 直登

三旗掲揚・国歌斉唱



式典音楽隊



式典音楽隊



式典音楽隊